様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23 年　5 月　31 日現在

機関番号：１２１０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０４５１
研究課題名（和文）　後期近代における社会的排除とアイデンティティ―フランスにおける都市底辺層
研究課題名（英文）　Identity and Social Exclusion in the Late Modern Society: Urban Poor in France

研究代表者
稲葉　奈々子（　INABA NANAKO　）
茨城大学・人文学部・准教授
研究者番号：４０３０２３３５

研究成果の概要（和文）：

失業者やホームレスなど社会的排除を経験する当事者の社会運動は、社会的権利を要求する手段であると同時に、同じ経験を共有する排除の当事者の共同性の場としても機能することで、内に向かうインヴォルーションの過程をたどる。しかしながら、「いまだ出会っていない潜在的な仲間」との連帯というフレームが受け入れられたときには、街頭行動が他者と出会う場として認知されるがゆえに、公的空間の占拠などの対抗性を持った抗議行動として表出される。

研究成果の概要（英文）：

Social movements against social exclusion such like unemployment, homelessness are not only instruments to reclaim the social rights but also the places to share the experience of the actors. The involution of the movements follows the process of sharing and understanding of the actors who themselves are excluded socially. When the frame of “the solidarity with someone whom they have never seen” is accepted, the movements are expressed by the radical direct protesting action such as occupation of public sphere which is recognized as a place of encounter.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会学
科研費の分科・細目：　社会学・社会学
キーワード：後期近代、社会的排除、フランス、都市底辺層、社会運動、アイデンティティ、社会権、ネオリベラリズム

１．研究開始当初の背景

近代社会が個人を出自によって決定される帰属から自由にした結果、産業社会においては職業が個人の生活に意味を与えてくれる主要な源泉となった。職業が人生に付与する意味システムは、産業社会の論理が終焉した脱産業社会においても強力に機能し続けている。この機能に、市場経済が必然的に生み出す格差を福祉制度によって是正しないことを原則とする新自由主義の作用が加わったことにより、個人は精神的、物質的両面から社会的排除を経験していると考えられる。

これらは新自由主義といった短期的な政策の帰結としてもっぱら説明されているが、19 世紀以降の自由主義と近代化が到達点に達したことによる結果として、社会的排除とアイデンティティの問題を考察する必要がある。

２．研究の目的

社会的排除の問題は、社会政策にとどまらず、個人をあらかじめ決められた意味のシステムから解放する近代社会の作用として解明する必要がある。これが本研究の目的である。

３．研究の方法

社会運動を「未来の預言者」として位置づけるトゥレーヌの議論に従うならば、社会的排除の矛盾を先鋭的に経験する個人が運動を担う行為者として現れるはずである。実際、社会的排除の構造的要因を社会運動が指摘することで、社会問題として開示されてきた。近代化の帰結として誕生した自由な個人が、自己の行為の責任をすべて引き受けるべきという価値観を内面化し、そのように規律化されたことが、社会的排除の経験のあり方に、どのように作用しているかを、個人に対する聞き取り調査により明らかにする。

不安定雇用や失業、ホームレスといった経験を個人がいかに認識しているかは、「社会的排除インダストリー」の図式を描くことで、個人がこの「インダストリー」のいずれかに位置づけられる過程、個々のインダストリーでの社会的排除への対応のされ方、個人のそれに対するリアクションを明らかにすることで把握する。

社会的排除インダストリーは、貧困層を食い物にしたビジネス、チャリティー、公的福祉機関、公的制度に対する交渉を行う社会運動、世論に訴える戦略をとる社会運動、オルタナティブを実践する社会運動に大きく分類することができる。

調査では、社会的排除インダストリーの制度の仕組みを明らかにすると同時に、当事者が社会的に排除されるに至った要因を構造的に位置づけるために、個人の就労や住居の状況を明らかにする。さらに個人が置かれた状況についての自己認識を聞き取り調査から明らかにする。社会運動に参加する個人と参加しない個人の双方に聞き取りを行う。

４．研究成果

社会的排除の経験というマイナスのアイデンティティを政治化する過程について、比較検討の対象として、日本でも同様に移民労働者の社会運動に対する聞き取り 調査を行うことで、社会的排除の問題を、文化的に特殊な問題としてではなく、後期近代という社会変動から説明する枠組みを提示した。マイナスのアイデンティティが政治的なアイデンティティに、転換する過程は、単なる相対的剥奪やル サンチマンだけでは説明することはできず、近代主義的価値観に基づく「自

由な個人」、さらにはそれを尖鋭化したネオリベラリズム的価値観、個人の挫折 の経験に付与する意味を歴史的背景を考慮して、さらに考察する必要性が明らかになった。アイデンティティの形成と転換は、個人に対する質的なインタビューによって しか把握することはできず、本研究ではそうした質的なデータの蓄積を行うことができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

1. 大曲由起子・髙谷幸・鍛治到・稲葉奈々子・樋口直人[2011] 「在学率と通学率から見る在日外国人青少年の教育—2000 年国勢調査データの分析から」『アジア太平洋研究センター年報』第 8 号、pp.31-38 (査読無)

2. 大曲由起子・髙谷幸・鍛治致・稲葉奈々子・樋口直人[2011]「在日外国人の仕事—2000 年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44 号、pp.27-42（査読無）

3. 大曲由起子・髙谷幸・鍛治致・稲葉奈々子・樋口直人[2011]「家族・ジェンダーからみる在日外国人—国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44 号、pp.11-25（査読無）

4. 稲葉奈々子[2010]「持たざる者の運動の＜予示的政治＞としての公共的空間の占拠」『寄せ場』第 23 号、pp.5-21.（査読無）

5. 稲葉奈々子[2010]「国境を越える社会運動と直接民主主義—2008 年洞爺湖サミット抗議行動における「持たざる者の運動」からの考察」『茨城大学地域総合研究所年報』第 43 号、pp.75-84.（査読無）

6. 稲葉奈々子[2010]「ハイリゲンダム・サミットにおける『社会的排除に反対する行進』と反グローバリズムの闘い—ともに記憶をつくる」『アジア太平洋研究センター年報』第 6 号、pp.26-33.（査読有）

7.稲葉奈々子・樋口直人[2010]「デカセギと家族(7)：独立への 2 つの道・G一家の場合」『茨城大学人文コミュニケーション学科論集』8 号、pp.19-28.（査読無）

8. 樋口直人・稲葉奈々子[2010]「デカセギと家族(8)：兄弟の成功物語・H一家の場合」『徳島大学社会科学研究』23 号、pp.169-184.（査読無）

9. 樋口直人・稲葉奈々子[2010]「デカセギと家族（9）：ライフコース上のそれぞれの帰結・I一家の場合」『茨城大学地域総合研究所年報』第 43 号、pp.85-94.（査読無）

10.稲葉奈々子[2010]「フランス共和国はクズが一掃されて美しい国になったのか」『Mネット』128 号、p.17.（査読無）

11. 稲葉奈々子[2010]「正規移民を強制退去させる方法—フランス政府によるロマの追放」『Mネット』134 号、pp. 18-19（査読無）

12. 稲葉奈々子[2009]「忘れられた移民の出身国：フランス移民研究への新たな視角」『アジア太平洋レビュー』第 6 号、pp.2-14.（査読有）

13. 樋口直人・稲葉奈々子[2009]「アルゼンチンからのデカセギ研究・序説：デカセギの概要と仮説提示の試み」『茨城大学地域総合研究所年報』第 42 号、pp.23-39.（査読無）

14. 樋口直人・稲葉奈々子[2009]「滞日イラン人の求職と転職：出稼ぎイラン人の軌跡・滞日編」『徳島大学社会科学研究』第 22 号、pp.15-31.（査読無）

15. 樋口直人・稲葉奈々子[2009]「デカセギと家族(5)：家族離散と再結合の過程・E一家の場合」『茨城大学地域総合研究所年報』第 42 号、pp.61-67.（査読無）

16. 樋口直人・稲葉奈々子[2009]「デカセギと家族(4)：日本で育った子どもが帰ってから・D一家の場合」『徳島大学社会科学研究』第 22 号、pp.33-45.（査読無）

17. 稲葉奈々子・樋口直人[2009]「デカセギと家族（6）：ミドルクラスのハビトゥスと周辺的労働力という現実の間・F一家の場合」『茨城大学人文コミュニケーション学科論集』7 号、pp.30-37.（査読無）

18. 稲葉奈々子[2009]「結婚とお金の関係」『Mネット』115 号、pp.6-7.(査読無)

19. 稲葉奈々子[2008]「あと 1 メートルの表現の自由を— « NoVox »反サミットの旅・同行記」『週間金曜日』712 号、pp.22-23.（査読無）

20. INABA Nanako [2008] "68 au Japon: sortir de l'enchantement" in *Revue*

Contretemps 2008, Vol.22 (1968: Un monde en révoltes), pp.63-70.(査読無)

〔学会発表〕（計 9 件）

1. 稲葉奈々子　[2010.11.7]「＜サンパピエ＞の運動と反植民地主義言説：フランスにおける非正規滞在移民の正規化運動の変遷：作動しなかったポスト・コロニアリズム」日本社会学会（名古屋大学）

2. 稲葉奈々子・樋口直人 [2010.6.19] アルゼンチンから日本へのデカセギを考える(2)日系アルゼンチン人の移住と世帯戦略」第 58 回関東社会学会（中央大学）

3. 樋口直人・稲葉奈々子[2010.6.19]「アルゼンチンから日本へのデカセギを考える(1)滞日アルゼンチン人の求職をめぐる人的資本と社会関係資本」第 58 回関東社会学会（中央大学）

4. 稲葉奈々子　[2009.11.28] 「＜占拠＞というアート」日本寄せ場学会秋期シンポジウム（京都大学）

5. 稲葉奈々子　[2009.10.17] 「自由な社会における社会的排除とアイデンティティ―貧困の当事者運動の日仏比較からの考察」日仏会館シンポジウム『排除なき社会をつくることはできるか―日本とフランスの視点』（日仏会館）

6. INABA Nanako [2008.9.6] La participation aux mouvements sociaux et l'intériorisation de la valeur libérale : La lutte des Africains pour le logement dans la région parisienne, ISA Forum of Sociology (Barcelona)

7. INABA Nanako & HIGUCHI Naoto, [2008.9.6] Learning to labor, Trapped to Consumers: Adaptation and Alienation among Muslim Migrant Workers in Japan, ISA Forum of Sociology (Barcelona).

8. 稲葉奈々子　[2008.6.20] 関東社会学会「移動する家族の定錨：アルゼンチンからのデカセギと世帯再生産」関東社会学会（首都大学東京）

9. 稲葉奈々子 [2008.5.31]「＜占拠＞という技法：フランスにおける持たざる者の運動」日仏会館シンポジウム『集合行為と闘争への関与：日仏比較』（日仏会館）

〔図書〕（計 4 件）

1. TOLENTINO Leny P. T & INABA Nanako [2011] "The Story of Kalakasan and Migrant Filipinas" in, ed. Kumiko Fujimura-Fanselow, *Transforming Japan: How Feminism and Diversity are Making a Difference*, The Feminist Press, pp.199-212.

2. 稲葉奈々子[2010]「グローバリゼーション―『もう一つ』の世界を求める市民たち」三浦信孝・西山教行編著『現代フランスを知るための 62 章』明石書店、pp.202-206.

3. 稲葉奈々子[2008]「EUにおける格差と貧困―社会的排除問題を考える」牧野富夫・村上英吾編著『格差と貧困がわかる 20 講』明石書店pp.168-178.

4. 稲葉奈々子[2008] 「国境を越える社会問題」三村信男他編『サステイナビリティ学をつくる―持続可能な地球・社会・人間システムを目指して』pp.131-139.

〔その他〕
ホームページ等

http://info.ibaraki.ac.jp/Profiles/5/0000428/profile.html

６．研究組織
(1)　研究代表者
稲葉　奈々子（INABA Nanako　）
茨城大学　人文学部　准教授
研究者番号：40302335